

「四季・植物」 12 当帰

学名 *Angelica acutiloba* Kitagawa

セリ科の多年草

漢名「当帰」の音読みだが、中国の「当帰」は別種の植物である。

とうき 郷土資料から見た「当帰」のあれこれ

毎年6月の第一日曜日は米山の山開きがおこなわれるが、米山登山の際は「帰りのみやげの当帰（とうき）は忘れてはならぬもので、これを買って帰って軒下につるすこと、近所に配ることも昔から伝わっている習慣です」（「柏崎歳時記」）とあるように、当帰は米山と深い関わりがある。

当帰を軒下につるすのは疫病除けのためのまじないだが、かつては山頂の山小屋で当帰を土産物として当帰を売っていた。これを採るのは山麓の吉尾集落の女性に限られていたという。

漢方では根を陰干したものを使用するが、江戸時代末期に江戸の二大医家といわれた、十日町出身の医師尾台榕堂おだいようどうが、米山周辺の当帰の良質をほめている。民間では、乾燥させた葉を冷え性に効くとして、入浴剤に用いる。

「米山のものは、採集方法の不適切のため、絶滅に近いのが残念である」（「柏崎の植物」）というように、現在では少なくなりつつある植物である。

参考資料

「図説 樹と花の大事典」	植物文化研究会・雅麗編	1996	「越佐人物誌」	牧田利平編	1972
「日本大百科全書」	小学館発行	1994	「日本の薬草」	貝津好孝著	1995
「柏崎市史資料集 民俗篇」	柏崎市史編さん委員会編	1986	「写真歳時記 柏崎」	柏崎市中央公民館編	1967
「柏崎の植物」	柏崎市教育委員会編	1981	「柏崎・刈羽の山野草」	柏崎植物友の会編	1986
「柏崎歳時記」	山田良平著	1957	「谷根」	柏崎市ガス水道局発行	1978